



Associação Crianças de LUZ

CANOA

だより75 August 2025

文・写真_鈴木真由美 編集_星久美子・稲垣由紀 発行_光の子どもたちの会
Praia do Estevão s/n, Canoa Quebrada, Aracati-CE-Brasil CEP:62800-000
連絡先: info@criancasdeluz.org

PROSPERO ANO NOVO !!

新年あけましておめでとうございます。

2024年はカノア保育園及び学童教室の支援団体がドイツでも立ち上がり、ブラジル国内外における支援の輪が広がってきているように感じます。それと同時に、例えばドイツでは、素晴らしい活動だと言って頂いても、なかなか支援にはつながらないというもどかしさもあるようです。

2000年4月に創設されたカノア保育園は、2025年4月で25年を迎えます。

今まで多くの方に支えて頂きながら、この日を迎えることができました。本当にありがとうございます！！

現地のスタッフが中心となり、活動が運営されるようになってから丸2年。ただ教員として働いていた彼女たちが、この2年間、教室の運営に挑戦しました。活動全体を運営していくこともできると話した彼女たちに、不安がありながらも、意志の強さを感じた私たち「光の子どもたちの会」は、支える側となりました。最近では見通しが甘かったと嘆くことも多い彼女たちですが、毎日のようなSNSでのやり取り、毎月のオンライン会議をしながら、この活動が地域に必要とされる限り、私たちにできるサポートを続けていきたいと考えています。

2025年。私たちは“支える”団体として、何ができるのでしょうか？そのことを今一度、皆さんと一緒に考えていけたら嬉しいです。

現在私たちは日本国内において、他団体と協力しながら多文化共生に向けた活動を実施しています。老若男女、だれもが自分の生き方を大切にしながら、様々な人との出会いを楽しみ、共に生活していくことを考え、歩んでいくことができたらと願っています。





ブラジル職員からのお便り



<2024年における、カノア保育園及び学童教室>

2024年は私たちにとって変化の1年であり、困難な1年でもありました。多くの人たちからの支援を頂き、新入园児を迎え、園児や児童の家族からの信頼も得ることができました。そして行われた季節ごとのイベントは、とても素晴らしいものでした。私たち自身も教育に対する信念を再確認する中で、エステーヴァン村にとって、カノア保育園及び学童教室がどれだけ大切なものであるのかということが分かりました。

今、学童教室には2名の卒園生たちがボランティアとして参加してくれています。また、2018年以降久しぶりに、Simone（ブラジル人）やKaren（日本人）といったボランティアを受け入れました。彼らのようなボランティアは、新しい風を私たちに届けてくれるため、2025年はもっと多くのボランティアを学童教室に受け入れることができたら嬉しいです。ボランティアとして参加したいと皆さん、お待ちしております！！

2024年はセアラ州立大学アラカチキャンパスの協力で、いくつかのワークショップを実施することができました。また、ミカエル学校（シュタイナー学校、在フォルタレーザ市）の人たちが見学に訪れ、カノア保育園及び学童教室の修繕を一緒に行ってくださいました。彼らは、今では私たちにとって重要な協力団体の1つとなっています。そして彼らから大きなプレゼントをもらいました。それは、驚くことに、シュタイナー教育を学ぶための教員養成講座に奨学生として迎えてくれるというものでした！

2024年の1年間で一番難しかったことはやはり、カノア保育園及び学童教室の運営でした。資金を集めることは思っていた以上に難しく、予定金額を達成できない月もありました。2025年は、運営に関して、再考していく必要があります。ぜひ皆さんのお力をお貸しください。



<季節の営み（イベント）の大切さ>

私たちは子どもたちが“生きる”季節を大切にしています。その季節の営み（イベントなど）は、園児や児童の内面、心を理解することに役立っています。私たち教員はいつも、子どもそれぞれが興味を持っていること、質問の内容、そうした1つひとつを観察しながら一緒に遊びに取り組んでいます。地域住民と共にに行うイベントは、子どもたちやその家族だけでなく、地域の人たちも心から待ち望んでいるものとなっています。

その中でも「São João（聖ジョアン）」の季節、Festa Junina（6月のお祭り）とも言いますが、このお祭りは子どもたちが1年の中で一番楽しみにしているものといっても過言ではありません。6月の三人の聖人について、それぞれの意味や由来を知るだけでなく、焚火を囲み、手作りのランプを手にとって村を歩くなど、村の伝統文化を伝承していくことも私たちの重要な役割の1つだと考えています。

今年は「Caju（カシューナッツの実）」の季節を子どもたちと行いました。それは私たちの村にとってもとても大切なことでした。私たちはカシューナッツの実がなる木を人生に例えて子どもたちとたくさん話をしました。森を散策し、村の人々を訪問して昔の話を聞き、カジュの実を使ったジャムやジュースを作り、カシューナッツを炒るなど、とても楽しい時間を、地域住民と一緒に過ごすことができたのです。こうした新しい取り組みも積極的に行っていきたいと考えています。



カノア保育園卒園生からのお便り



ドイツの大学に進学し、教育、心理学を学び、現在森の幼稚園で教師として勤めています。

何か自分にできることはないかと考える中で、ドイツにカノアの活動を支える会を設立しようと考えました。

私の姉もドイツに住んでいるということもあり、私の家族と姉の家族を中心に、Associação Crianças de Luz internationalを2024年7月に設立しました。

私自身が現地に住んでスタッフとして働くことができないので、寄付を募り、定期的に資金を送金できるようにできたらと考えています。

Viviane（ヴィヴィアーニ）



カノアニュース＊Novidade em Canoa

2024年8月、上智大学の学生である小笠原花恋さんがボランティアとして3週間、カノアに滞在しました。花恋さんからの活動報告を紹介します。



カノアでの特別な夏

小笠原花恋

2024年8月1日、私は地球の真反対にあるブラジル北東部の漁村、カノア・ケブラーダに向けて旅立ちました。未知の土地、見知らぬ人々との生活に不安を抱きながらも、現地で過ごした3週間は、私の人生を大きく変える貴重な時間となりました。

カノア・ケブラーダは、温かい人々、美しい自然、独特な文化が溢れる魅力的な場所です。平日はCrianças de luzの保育園と学童教室でボランティア活動を行い、現地の子どもたちと過ごしました。最初はお互い緊張していたものの、日を追うごとに子どもたちは私にフレンドリーに接してくれるようになり、言葉が通じない中でも身振り手振りや拙いポルトガル語を通じて心を通わせることができました。

特に印象に残っているのは、文化の違いを感じられる体験の数々です。例えば、キリスト教に基づく歌やお祈りが日常の活動に取り入れられていること、日本の保育園とは異なる曜日ごとの多彩なプログラム、そしてパン作りの活動です。小麦をこねて形を作り、翌日に出来上がったパンをみんなで食べるというこの体験は、子どもたちと一緒に過ごした中で特に心に残るものでした。日本でこのような経験をしたことがなかった私にとって、新鮮で感動的な時間でした。

ボランティア活動がない日には、現地の生活を深く味わう機会にも恵まれました。保育園の先生の家で振る舞われたブラジル料理を堪能したり、夕焼けが美しいビーチを散歩したり、砂丘でソリ滑りをして遊んだりしました。さらに、地元のお祭りでは現地の音楽を聴きながら賑やかな雰囲気を楽しみ、夜の街では買い物や食事を満喫しました。

カノア・ケブラーダのもう一つの魅力は、そのアットホームな雰囲気です。小さな街ならではの温かさがあり、道を歩けばすれ違う人々がみんな知り合いのようで、挨拶や世間話が飛び交います。その光景はどこか懐かしさを感じさせ、まるで第二の故郷のように感じられました。

カノア・ケブラーダで過ごした日々は、異文化理解の大切さや、人との繋がり温かさを教えてくれるかけがえのない体験となりました。この夏に得た学びや感動を胸に、これからの人生に活かしていきたいと思えます。

子育て日記より

神奈川県で外国人教育相談員として活動を始めようになり、日本に住む、様々な外国につながる子どもやその家族、そしてその人たちを支える人や団体との新しい出会いがありました。学業に、仕事に頑張っている人もいれば、親の都合で振り回されている子どもなど、それぞれが異なる課題や不安、悩みを抱えており、それでも日本に住み続けている人たちがいる。私自身も2人の娘を持ち、日本とブラジルで生活してきたけれど、周囲の人や環境にどれだけ恵まれていたのかということを感じています。娘たちがそのことに気づき、自分たちにできることをと活動している姿を見ると、とてもたくましいなあ～と思うと同時に、嬉しくなります。支えてくださった多くの皆様に感謝しつつ、これからも私達親子をどうぞよろしくお願いいたします！

国内活動＊Atividade no Japão

●多文化共生イベントにて ブラジル料理教室を開催

現在日本国内において、日本に住む外国につながる子どもやその家族に対する支援活動をしている私達ですが、前号でご紹介した、「NPO法人霧が丘ぷらっとほーむ」と共同で、定期的な多文化共生イベントを開催しています。それと同時に、当団体事務局のある、横浜市港北区の町内会の協力を得て、区内在住のブラジル人の方を講師としてお招きし、「ブラジルのクリスマス体験してみませんか？」と題して、ブラジル料理教室を開催しました。

よこはま夢ファンド
助成事業

※よこはま夢ファンド
助成事業への寄付
については裏表紙へ



町内に住む老若男女が集まり、ブラジルでのクリスマスってどんなものなのか？という話を聞き、料理を一緒に作り、食べながら、最後にはポルトガル語でクリスマスの歌を歌いました。

当日になり足りない食材があることがあることが分かり、スーパーに自転車で買いに行ってくれた町内会長さん。両親が中国国籍で、日本で生まれ育った小学生が参加してくれるなど、外国につながる子どもやその家族は、こんなにも身近に存在するのだということを地域の方にも知っていただける良い機会になったのではないかと感じています。



次回は「ブラジルのイースターを体験しよう！（仮）」として、春休みに開催予定です。そして、「NPO法人霧が丘ぷらっとほーむ」が開催する下記のようなイベントに私たちも参加予定です。お近くの方はぜひ、ご参加くださいね。

【MulculFes2025】

日時：2025年3月8日(土)

場所：ぷらっとkircacafe

内容：インドのカレー食べ比べ、手工芸品の販売、
ブラジル料理教室(仮)など

ぜひご参加ください！



●横浜隼人高校の文化祭 JANGADAの帆に絵を描きました！

高校2年生 鈴木 真琳

昨年からスタートしたエステヴァン村の若者たちと横浜隼人高校の生徒との国際交流プロジェクトが終盤を迎えました。2つの国の若者たちにSDGsの「海の豊かさを守ろう」という1つのテーマに沿って考えながら、帆船(ジャンガダ)の帆に絵を描いて頂きました。

7月にエステヴァン村の人達に絵を描いてもらい、日本では9月の横浜隼人高校の隼輝祭で展示を行い、来場者の方々にも絵を描いて頂きました。そして今年の1月には横浜隼人高校国際語科の生徒たちに最後の仕上げとして自分たちが考える海の豊かさを絵に表して頂きました。

私自身も実際にブラジル、そして日本で若者たちと一緒に絵を描かせていただきました。やはり一概に「海の豊かさ」といっても、2つの国で書いてくれた絵は違っていて驚きました。海の幸について考えてくれた人やゴミ問題について考えてくれた人など参加してくれた皆さんが海について沢山考えて頂けたのが嬉しかったです。



完成した帆はブラジルに持って帰り、現地の漁師さんに寄付をします。この活動に参加したことで、新たにエステヴァン村を知っていただけたら、これからも海の豊かさを守っていくためにどうしたらいいかなど考える機会を与えられていたらいいなと思いました。初めは不安でいっぱいでしたが、無事に地球の裏側の国同士が協力して1つの帆を完成させられて達成感でいっぱいです。このプロジェクトにご協力を頂いた皆様、本当にありがとうございました。



●はだの多文化ひろば2024 ～ミントの会×光のこどもたちの会×SDGs多文化CITYプロジェクト

「秦野から発信し広めよう！多文化共生を身近に感じ、誰もが生き生きと暮らせる街」

秦野市民と県内で活動する国際協力団体や国際交流団体が秦野市でお互いの声を聴き、顔を合わせて交流する数少ない機会を作ろうと、3つの団体が共同主催者となり、開催しました。12月17～21日という期間の中で、神奈川県内で活動する団体紹介パネル展示したり、ワークショップを開催し、楽しく多文化を知る機会を持ってもらったり。秦野市本町公民館の全面協力で行われました。来年も開催予定ですので、お楽しみに！！

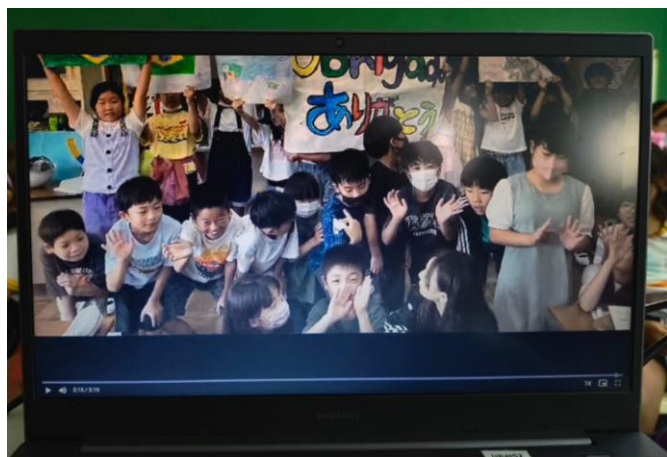


JICA草の根技術協力事業 無事終了しました！！



2022年12月より開始された「JICA草の根技術協力事業：ブラジル国ライフスキルトレーニング（LST）持続発展のための組織力向上プロジェクト」。第3フェーズとして始まったこの事業では、始めて本邦研修を実施しました。ブラジル国セアラ州アラカチ市の教員であるアルテミーシアさん（アラカチ市教育局教育部長）、ニウデーニさん（アラカチ市教育局研修担当）の2名が参加してくれました。

2名の本邦研修生は、神奈川県秦野市における研修から得た学びを精査し、アラカチ市で実践できることにはすぐに取り組むなど、その実行力に驚かされるとともに、短期間での滞在においても、アラカチ市にとって教育の質の向上における重要な機会となったのだと実感することができました。それは本事業を実施した私たちにとっても、意義のあるものなのだと強く感じる機会ともなりました。



また、2024年1月28日～2月8日まで、神奈川県秦野市教育委員会から市川潤一先生（秦野市教育研究所所長）と安藤淳先生（指導主事（当時））の2名が、ブラジル国セアラ州アラカチ市にて学校教育専門家として活動されました。

その中でも特に、秦野市の教育政策の1つである「学びの基盤プロジェクト」に関する講義をして頂いたのですが、学力を向上させるためには、自己肯定感や自信、コミュニケーション能力に社会性といった、非認知能力を育てることが重要であるという、エビデンスをもとに話してくださいました。

この講義には、アラカチ市教育局に所属する教員も感銘を受けたようで、どうすれば、現在すべての学校で必須教科となった「Socioemotional（社会情緒）=Social Emotion Learning」を上手く導入することができるのかという議論が、アラカチ市全ての公立学校でなされるようになりました。それと同時に、JICAブラジルにおいても興味を持っていただき、現在本事業紹介のHPに「学びの基盤プロジェクト」の資料が掲載されています。当該資料は、以前JICAブラジルがまとめた記事（ポルトガル語）に掲載されていますので、ぜひ下記をご覧ください！！

ブラジルからの教員を受け入れてくれていた
秦野市北小学校×E.E.T.I. Darcy Ribeiro
の国際交流。2つの国の子ども達の遊びの交流、そして現在は物語を一緒に作成中です！

JICAブラジルがまとめた記事
（ポルトガル語）はこちらから



ありがとうございます＊Obrigado

2023年12月7日～2024年7月25日現在までに会費及び寄付を頂きました皆さま及び物資支援を頂きました皆さまのお名前を下記に記載いたしました。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

会費及び寄付を頂きました皆様(順不同)

安見清さま、安見道子さま、石田泰三さま、石田まどかさま、入間カイさま、鶴沢聡明さま、太田朋子さま、定森徹さま、関塚翼さま、富本潤子さま、馬場悠男さま、堀池ミツ子さま、吉田可南子さま

物資支援を頂きました皆様(順不同)

保育室 プリンプリンROOM

◇ふるさと納税で寄付ができるようになりました！

※『よこはま夢ファンド』（横浜市市民活動推進基金）は、ふるさと納税制度を活用した市民活動を財政的に支援するための基金です。

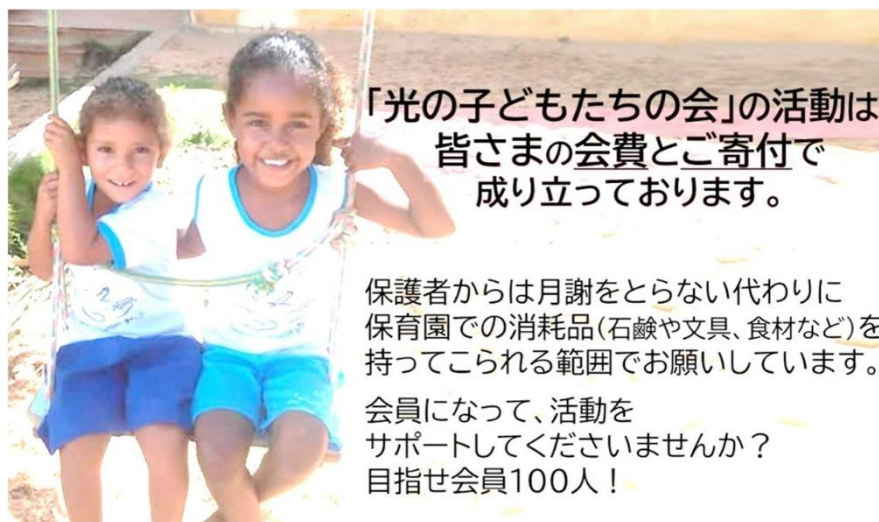
特色1：寄附の際、支援したいNPO法人の団体名や活動分野を希望できます。

特色2：寄附していただくと税制優遇制度を利用できます。（ふるさと納税）

（個人の場合は所得税・住民税の控除、法人の場合は全額損金算入）

「光の子どもたちの会」も登録している団体の1つのため、「よこはま夢ファンド」を通じて支援していただくことができるようになりました。寄附活用希望先として「団体」を指定をする必要があるため、【必ず】電子申請システムのフォームで「光の子どもたちの会」を入力する申請が必要となります。

ふるさと納税
くわしくはこちら



保護者からは月謝をとらない代わりに
保育園での消耗品(石鹸や文具、食材など)を
持ってこられる範囲でお願いしています。

会員になって、活動を
サポートして下さいますか？
目指せ会員100人！

会費・ご寄付の
振込はSTORESから
できます！

<https://criancasdeluz.stores.jp/>

くわしくは
こちら！



年会費(5,000円)・ご寄付のお振込み方法

1. 自動引き落とし

お持ちの口座の金融機関で手続きができます。引き落とし日、金額をご指定いただけます。尚、ゆうちょ銀行からお振込の場合は以下の【2. 郵便振替】と同じ口座番号ですが、他金機関からの振込の場合には、【3. ゆうちょ銀行振込】の口座番号となりますのでご確認ください。

2. 郵便振替

口座番号 00280-1-41787

加入者 光の子どもたち・カノアの活動を支える会

3. ゆうちょ銀行振込

名義 光の子どもたちの会 店名 ○二八（ゼロニハチ）

店番号 928 普通 口座番号 5552594



<https://criancasdeluz.org/donation/>

問い合わせ先：

代表 鈴木真由美 / 日本事務局 藤田枝美

〒223-0056 神奈川県横浜市港北区新吉田町5338-23

FAX 045-594-5830 info@criancasdeluz.org